

離島実習事後レポート

8月20日～24日、曾於医師会立病院、有明病院にて実習を行った。

1日目

午前中は鹿児島市内から曾於市まで移動、午後から実習をした。事務長さんに簡単に病院の案内をしてもらったあと院長の才原先生と自己紹介程度にお話をさせていただいた。一日目の最後は、感染症対策の講演をしていただいた。ブルーライトを使って自分の手の汚れを実際に見て、正しい手の洗い方、消毒の仕方などを学ぶことができた。

2日目

午前中は整形外科の手術を見学した。実際の手術の雰囲気などがわかった。午後は有明病院へ行って、カンファレンスに参加し回診に付き添った。先生方が患者さん一人一人に真摯に向き合っている姿に感動した。

3日目

午前中は胃カメラ検査の見学をした。解剖を終えたばかりの自分にとって生きた人間の消化管を観察することは非常に勉強になった。午後はCT・MRIの見学をした。

4日目

終日、ありあけ苑での実習だった。午前中は訪問看護の見学をした。患者さんの足や手をペットボトルで作った簡易シャワーで洗うなどの様々な工夫が見られた。昼食は大黒で海鮮丼をご馳走させていただいた。午後はありあけ苑にて入所者の方々と交流した。最後は入所者の方々を家までバスで送り届けた。

5日目

最終日は主に地域診断実習をした。地元のシンボルである弥五郎どんの人形や銅像を見に行った。

俳句

医師不足 離島は意外と そおでもない

決して離島において医師が不足していないというわけではなく、鹿児島は離島が多く地域医療といえば離島での医療が注目されがちであるため、陸続きの曾於市での医療問題の深刻さを伝えようと思った。

●地域推薦卒医学生夏期離島実習2018事後レポート

～感想～

私の実習先は、曾於医師会立病院でした。1日目の午後には曾於医師会立病院に着き、さっそく病院施設を見学させていただきました。この時一番印象に残ったことが、使われなくなった分娩室です。かつては曾於医師会立病院にも産婦人科があったのでこの部屋があるのですが、この先生が亡くなり代わりの産婦人科の先生も来られずに、結局分娩室は使われなくなり、曾於市の妊婦さんは隣の市の都城市か鹿屋市まで行かないといけないう状況があることに地域医療の格差が見られたと思います。施設回りの次は、病院で最も大切な感染対策についての講義があり、日頃の手洗いでだけでは不十分であることを痛感できました。

2日目の午前中は、主に整形外科の手術を中に入って見学させていただきました。人生で初めて手術を見ることができ、医師以外の人の仕事も見学できて良い機会になりました。午後は、曾於医師会立病院と提携している志布志市の有明病院の方に向かい、院長回診を見学させていただきました。回診というのは医師が患者の病室に行ってただ病状を診るだけかと思っていきましたが、全然違いました。回診前に医師と看護婦、理学療法士や管理栄養士などの医療従事者が1つの場所に集まりカンファレンスというものを行なっていました。回診する全ての患者の病名などの情報がまとまった1枚の紙とカルテを使いながら、その患者の最近の様子、親族の状況、服用している薬、食事の具合などを医師だけでなく医療従事者と全員で情報を提供し合う姿がとても心に残りました。また、回診している先生の中で、薬の作用・副作用を細かく調べて患者に必要最低限の薬を服用させようとしている医師の方がカルテを見ながら医療従事者と話し合い、今後の服用する薬を決めることは素晴らしいと思いました。

3日目は曾於医師会立病院でリハビリや胃カメラ検査など多くのことを見学させていただきました。

4日目は曾於医師会立病院と提携している介護老人保健施設のありあけ苑での実習でした。午前中は訪問看護の現場をケアマネージャーの方と一緒に回りました。志布志市や大崎町を回りながら介護分野における地域医療の話聞いて、さらに様々な事情を要介護者が持っているということを知ることができていい機会になりました。午後はありあけ苑に戻り施設を回って苑の方々とたくさん触れ合いました。

最終日は外来の見学をしました。受付の手伝いをしましたが、あまり日本語を上手く書くことができない患者さんと立ち会い、問診の紙を書く作業を手伝いましたが、あまり上手く病状について聞くことができずに苦労しました。この活動で改めて医師にコミュニケーション能力は必要であると考えさせられました。

この実習を通して一番印象に残ったことは、困難なことに対してはチームで乗り切るということです。医師不足という深刻な問題を抱えているが、医療従事者一人一人が堂々とのびのびと仕事をし、全員で困難を乗り越えるという病院の雰囲気がとても良かったです。また、とある医師の先生が、「患者さんは体と心。そんな患者さんを診る医師はコミュニケーションの力も大事だし、全ての科のことを知っていなければならない。」というアドバイスのお言葉も印象に残りました。

俳句： 樹々の中 笑顔咲かせる チーム医療

俳句の背景:医師不足を抱える山奥の病院でも、まず病院関係者が良い雰囲気で笑顔で仕事に取り組み、患者さんに対しては医師と医療従事者が協力してより良い治療を提供しようと熱心な姿が印象に残り、この俳句を作った。